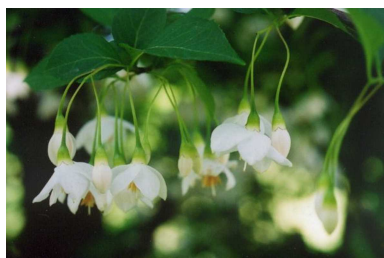


## 大事にされない役立つエゴノキ

### 1. どこにでもある木

日本全国の雑木林に多く見られる落葉小高木で、伐採後の萌芽力が強い木です。陽樹で、周りの木が成長して暗くなった林内では立ち枯れしていくものも多く、打吹山では遊歩道脇の林縁部にみられます。横に出た小枝の多い樹形で、樹皮は滑らかで赤黒褐色です。



エゴノキの花

6月頃、短枝に房状に白い花を下向きに多数つけ、よく目立ち、芳香があります。果実は長径2cmほどの灰白色、長球形の核果で、10月頃熟すと果皮が裂けて種子が落下します。



エゴノキの樹形

### 2. いろいろな名前を持つことは関心を持たれている

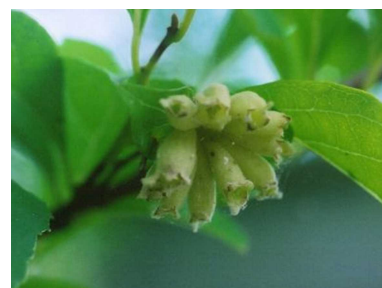
和名は果実を口に入れると“えぐい”ことに由来します。倉吉では「つない」、岡山県北部では、「ちない」と呼び、チシャノキ、ロクロギ(和傘の木部に使用したため)等とも呼ばれます。

### 3. 毒があっても動物に人気

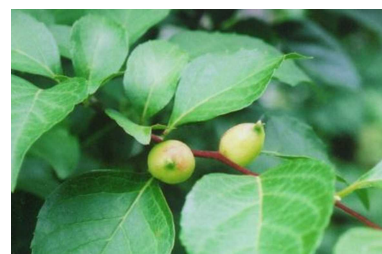
葉を幼虫の餌とするエゴツルクビオトシブミが、揺籃(ゆりかご)に巻きます。

虫コブとして、アブラムシによる異形のエゴノネコアシやタマバエによるエゴノキメフクレフシをよく見ます。

種子は硬い殻を持ちますが、ヤマガラの好物です。エゴシギゾウムシやエゴヒゲナガゾウムシは、殻の軟らかい晩春や夏に種子中に産卵し、幼虫は釣りの餌になります。



エゴノネコアシ



エゴノキメフクレフシ

### 4. 伐採してもなくならないので便利

材は機密で粘り強く、大内人形(山口市)や将棋の駒など工芸品の素材です。この粘り強さのため、「背負い籠の骨」や「かんじき」に用いられ、和傘の骨を受ける頭のろくろに使用されました。根元から萌芽した幹はスラリと伸びるので使い勝手も良いものです。

果皮に多く含まれる溶血作用をもつ有毒なサポニンは、かつて洗剤として用いました。また、魚毒としての使用は禁止されています。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2011)